笛吹市探訪

『縄文時代の空気を感じるところ ―釈迦堂遺跡を尋ねて』

発掘風景

スポットガイド・エリアマップで紹介した遺跡を尋ねるシリーズの2回目として、今回は『釈迦堂遺跡』を取り上げます。

釈迦堂遺跡は、縄文時代中期（今からおよそ4500年前）を中心とした大きな集落跡で、たくさんの土偶や土器が発見された遺跡として知られています。これらの出土品は、5599点の重要文化財とともに釈迦堂遺跡博物館に収蔵され、順次展示公開されています。博物館は中央自動車道釈迦堂パーキングエリアに隣接しているので、パーキングエリアから専用通路を通じて利用することもできます。

遺跡は京戸川扇状地の中央部（扇央部といいます）にありますので、とても眺めのいいところです。博物館は遺跡の一画にあります。訪れてみて、まず目を引くのは南アルプスの山並みをはじめとした目の前に広がる雄大な景色でしょう。晴れた日、朝日に輝く雪を被った山並みも、青々とした真夏の南アルプスの眺めも魅力的です。

南アルプスに沈む夕日（夏至）

遺跡から望む夕日

釈迦堂遺跡に暮らした縄文時代の人たちも同じ山並みを見ていたはずです。とりわけ、南アルプスに沈む夕日は日々その位置を変えていきます。夕日は、一年で最も日の長い夏至では、南アルプスの北端（見た目右端）に沈み、最も日の短くなる冬至では、見た目左端の笊ケ岳に沈みます。そして中ほどの農鳥岳には春分と秋分に沈みます。このように夕日は一年で南アルプスの冬至と夏至の日没点間を往復します。つまり遺跡から夕日の沈む位置が一年のカレンダーとして眺めることができるわけです。釈迦堂遺跡の縄文人も、一日の終わりに夕日を送りながら、季節の移り変わりを実感したと思います。大きな集落が営まれたのは、このような特別な場所だったからかもしれません。遺跡は縄文時代の人たちと同じ目線で風景を眺めさせてくれます。釈迦堂パーキングエリアの上り車線側のそばには、遺跡の名前の由来となった釈迦堂の杜がありません。お堂の中には縄文時代の石棒が祀られています。かつて遺跡から発見されたものを奉納したのでしょう。

博物館を活用しよう

釈迦堂遺跡博物館は風景もひとつの展示物という考えのもとに風景を観ながら縄文の空間へと誘えるよう設計されています。今年も「博物館でじっくり縄文時代を研究してみよう」という夏休み企画展を開催中です。

文化財課では、スポットガイドや遺跡周辺のエリアマップを作成しています。周辺には千米寺・石古墳群もあります。また道しるべや道祖神なども見て回れます。蜂城山からの眺めも絶景です。この機会に博物館を訪れ、実際に遺跡に立って縄文時代を体感してみませんか。そしてその周辺を散策してみましょう。きっと市の魅力に浸れるはずです。

なお、スポットガイドおよびエリアマップは各支所や市立図書館にも置いてありますのでご利用ください。

館内の土器

水煙文土器